

徴のある、良いワインにしていくかの試験研究を進めて行きたいと考えます。皆様の御指導をよろしく願います。

耐寒性品種 I K-567 の育成・栽培について

池田町ブドウ・ブドウ酒研究所

広瀬 秀司

北海道の東部に位置する十勝地方は年間降雨量700~1,000mmと国内の栽培地帯の中では小雨であるが、大陸性気候の特性から夏期高温、冬期極低温となる地帯であり、又、春期遅くまでオホーツク寒気団が停滞する。したがって欧州種の栽培を成功させるためには生育有効積算温度2,200~2,400℃の範囲である極早生種に限られる。しかし、これらの品種は冬期小降雪、極低温に耐える耐寒性因子を持ち合わせていないため、この地での欧州種栽培には冬期土中被覆することによって枝梢を生理乾燥凍害から防ぐ必要がある。大規模醸造用種栽培には整枝剪定技術を含め栽培管理の省力化が不可欠であり、当町では現在世界の野生ブドウで耐寒性因子を兼ね備えているといわれる道東の山ブドウに着目し交雑育種による耐寒性品種改良により、優良系統 I K567 を作出した。

交雑方法は山ブドウの開花が欧州種より10日早いため、父本を山ブドウ、母本を欧州種として交雑種の世代更新及び戻し交雑を繰り返した。栽培種と野生原種の交雑においてはF₁の状態では野生因子の導入率が高く、栽培形体として劣悪因子を伴って耐寒性因子が導入されるため、その因子を取り除くため戻し交雑を繰り返す必要がある。又、山ブドウの系統は挿木繁殖が容易でなく、したがって優良系統の増殖には組織培養により増殖を行い、後代検定を行っている。

育成された I K-567 は1975年山ブドウ♂× Seibel-13053 ♀ で作出したもので、その主な品種特性は以下の通りである。

萌芽期：4月28日（10ヶ年平均）、	開花期：6月30日、
熟期：10月10日、	花器形態：完全花、
着粒：密着、	果房重：130g、
	糖度：19度。

この品種の栽培は、すでに当町千代田地区の試験圃場に4ha植栽し、又、ブドウ生産農家へ栽培委託し、地域特性把握のため普及を開始した。又、その栽培全体は垣根方式（2.5m×2.0m）、10アールあたり200本の植栽密度で高姿コルドン方式で行っている。

表1. 池田町の気温

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均計	備 考
温 度 ℃	-8.9	-8.0	-2.6	5.0	10.5	14.2	18.0	19.6	15.3	9.0	2.1	-4.8	5.8	1962年～ 1988年平均
日照時間 hr	195	210	253	224	223	186	175	178	178	186	171	176	2,355	1966年～ 1988年平均
降水量 mm	40	33	51	56	81	95	87	128	113	86	71	36	878	1962年～ 1988年平均

(資料：日本気象協会 北海道本部)

表2. 池田町の日気温における年別最低極値(℃)

1965年	1966年	1967年	1968年	1969年	1970年	1971年	1972年	1973年	1974年	1975年	1976年
-24.2	-25.2	-25.4	-23.2	-28.5	-24.7	-27.0	-24.7	-22.8	-23.7	-27.2	-26.0
1977年	1978年	1979年	1980年	1981年	1982年	1983年	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年
-27.2	-27.6	-26.7	-24.7	-24.2	-26.1	-24.4	-26.4	-28.4	-24.8	-25.2	-20.8

(資料：日本気象協会 北海道本部)